

ムサ カプラン 米国出身の元ユダヤ教徒

:

明:

ムサ カプランは、ユダヤ教とイスラームの両方について学んだことをきっかけに、いかにしてイスラームに改宗したかを語ります。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ムサ カプラン

日 1 Aug 2014

集日 11 Aug 2014



イスラームへの改宗以前、私はユダヤ教徒として暮らしていました。私の家族は 的ではありませんが、私自身は 的ユダヤ教徒から宗教について学びました。私は 的ユダヤ教のシナゴグと、 的ユダヤ教学校に通いました。私は 在も、多 性の乏しい米国のユダヤ教徒の地域に住み けています。私の人生におけるユダヤ教の影 の さから、私には非ユダヤ教徒の友人が一人もいませんでした。しかし一年程前から、インタ ネットのチャットでムスリムたちと会 をするようになり、自分の宗教だけでなく、他の宗教を学ぶことに する い味を持ち始めました。私は、それがユダヤ教とそれほど ならないことから、イスラームに特 な 心を持ちました。これらの宗教は同じ 言者たち、理 、 を共有します。最も重要なこととして、同じ神アッラ を崇 しています。イスラームについては、それが平和的な宗教であることも知っていましたが、全くの先入 がなかったとは言えませんでした。幸い、私は多くのムスリムとオンラインを通して知り合い、私のガ ルフ

のほんの一部なのです。

これから述べる次のことも、私が人生における真を探し求めるきっかけとなった要因の一部です。アラビアで「イスラム」というのは、「服する」を意味する「サラマ」という根から派生したものです。「清」「平和」も同じ根から派生します。人は、唯一にして最も慈悲深く、慈にち溢れた御方であるアッラに服するのです。一方、他宗教は人名にちなんだ名称となっています。ユダヤ教はユダ族にちなんでおり、キリスト教はイエスキリストにちなんでいます。「イスラム」はに基づいたであり、アッラに、すべての言者たちを信じる者は、真のムスリムなのです。旧で述べられている多くの言者たちは、ユダヤ教ユダ族よりも以前から生きていました。彼らは神にいたため、皆ムスリムだったのです。そして私たちも、大なる人だった言者たちが生きただように生きるべきなのです。

私の若い年と、ユダヤ教徒のみの地域に住んでいるという状から、私の信仰が受け入れられる可能性が薄いということは明らかでした。私のとは非常に礼正しいですが、もしも自分たちの息子がイスラムに改宗したとなると、どう反するか分かりませんでした。それゆえ、今在は完全にイスラム的な生活をすることは出来ていませんが、私は一日五回の礼を行い、オンラインでイスラムを学び、唯一なる神を信じ、そのことを表すことが出来ています。アッラにえあれ。ただし、非常に困な事柄も存在します。ムスリムたちや中のことになると、私は他の人々よりも感情的になってしまいます。イスラエルにすることになると、家族全はイスラエル支持かつパレスチナ人にして起きている真にして全くの知ですが、私はパレスチナ人に公正な遇がされることを望んでいます。そして彼らがイスラエルの状、特に「ユダヤの地」「束の地」などの概念についてり出すと、私は容易に怒ってしまいます。

私はに自らのイスラム改宗について打ち明けていないため、モスクでの礼に参加することが出来ません。既述したように、私の住んでいる地域は多性に乏しく、最寄りのモスクも非常にいのです。私はまだ人の前でシャハ2ダをする会にもまれていませんが、最も良き人であるアッラの前でそれを行いました。一年には(免を取れる)16になるので、自分でモスクへして行けるようになると思

ます。インシャ アッラ (もしアッラ がお望みであれば)。最も重要なのは、人として成 することです。私はドラッグを取ったり、ポルノ をしたり、酒や窃盗をする友人たちを避けるようにしています。しい友人たちを避けるのは必ずしも容易ではありませんが、私はアッラ のために最善を尽くしています。そして の と共に、私の人格がアッラ が望むようなものと一致するよう っています。

クルア ンについて学ぶときは、それを独学で行わないよう、私はお めします。偏向的なウェブサイトを参考にしても、クルア ンの一つの が意味するところの包括的な意味を理解することは出来ないからです。

私はこれら一 の から、自分がイスラ ムを新たに したのではなく、イスラ ムを再受容したのだということが付きました。私は改宗をしたのでもなく、 したのです。それは暗 から明るみへの旅であり、私をより く、より精神的に、そしてより良い人 にしたのです。アッラ が私をお きになった真理へ、私たちすべてをお きになりますよう。

アシュハドゥ アッラ イラ ハ イッラッラ 、ワ アシュハドゥ アンナ ムハンマダッラ ス ルッラ !³

脚注:

¹ こうした兆候は昨今一般的になってはきているものの、してイスラ ムが婚前の男女 を めている ではありません。

² シャハ ダとは、イスラ ムへの入信に必要とされる、「アッラ 以外に崇 に する神はなく、ムハンマドはアッラ の使 」という 言のことです。それを行う に 人の存在は必要とはされていません。

³ これは上述の「シャハ ダ」をアラビア で述べたものです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/540>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。